

フッ素ワックス検査

SAJ
コンバインド

2024年12月

フッ素ワックス検査

- FISは2023/24シーズンからフッ素ワックス禁止の完全実施を決定
- FISはトップカテゴリーの大会において、フッ素ワックスが使用されていないことを確認するため、スキーの検査を実施する
 - FISワールドカップ
 - FIS世界スキー選手権
 - FISジュニア世界選手権などの主要大会
- その他のレベルの大会での検査は、これらの大会も規制されていることを確認するために各国スキー連盟と連携の下、無作為に実施される

フッ素ワックス検査

- FISは、IBUと同様に、FISの大会で義務付けられているフッ素ワックスの使用を禁止することに合意した。
- テストの開始をできるだけスムーズにすることがFISの目的であることを確認すること。
- FISはテストの数や場所に関する特定の情報を公表しない（例えば、すべてのドーピング・コントロールの詳細リストなど）。

フッ素ワックス検査

検査手順(ジャンプ)

- SAJ検査チーム＝フッ素ワックス検査員
- 検査はFIS公認大会およびSAJ公認大会で無作為に行われる。
- 検査はマテリアルコントロール室、またはブレーキングトラックの出口に隣接するフッ素ワックス検査エリアのテント内で行われる。
- テストセッションを実施する場合がある。

フッ素ワックス検査

ジャンプ競技後の検査手順

選手のスキーはジャンプ競技後にランダムに検査される可能性がある。

1. 検査スタッフがスキーをフッ素ワックス検査エリアに搬入する。
2. 検査スタッフがナンバーリングを行い、フッ素ワックス検査員が指定するラックにスキーを立てかける。
3. (マテリアルコントロール室、またはテント内において)検査が行われる。
4. すべての検査データは、SAJのPCに保存され、FIS公認大会の検査データはFISのデータベースに保存される。
5. 検査後のスキーは指定のラックに返却され、選手が自らピックアップする。

フッ素ワックス検査

検査手順（クロスカンントリー）

- SAJ検査チーム＝フッ素ワックス検査員
- 検査はFIS公認大会およびSAJ公認大会で無作為に行われる。
- 検査はフィニッシュエリアに隣接するフッ素ワックス検査エリアのテント内で行われる。
- テストセッションを実施する場合がある。

フッ素ワックス検査

クロスカンントリー競技後の検査手順

選手のスキーはクロスカンントリー競技後にランダムに検査される可能性がある。

1. 検査スタッフがスキーをフッ素ワックス検査エリアに搬入する。
2. 検査スタッフがナンバーリングを行い、フッ素ワックス検査員が指定するラックにスキーを立てかける。
3. (マテリアルコントロール室、またはテント内において)検査が行われる。
4. すべての検査データは、SAJのPCに保存され、FIS公認大会の検査データはFISのデータベースに保存される。
5. 検査後のスキーは指定のラックに返却され、選手が自らピックアップする。

フッ素ワックス検査

違反(レッド)スキー

- 選手のスキーが「レッド」と判定された場合、その選手が所属するチームの代表者が、フッ素ワックス検査員から連絡を受ける。
- スキーを回収するためにテント、またはコントロール室に立ち入ることが出来るのは、選手を含めて2名までとする。
- 要請があれば、レース終了後、フッ素ワックス検査員は、選手の失格につながった結果を開示する
- 収集されたすべてのデータは、FIS データ・ベース、またはSAJのPCに登録・保存される。
- 違反(レッド)スキーがレッド専用ラックから搬出された場合、いかなる再検査も行われない。

フッ素ワックス検査

ICR

222.8

フッ素ワックス、またはフッ素を含むワクシング用具の使用は、FIS のすべての種目およびレベルで禁止されている。フッ素ワックスは競技上有利になる可能性があり、競技での使用は失格となる。(競技規則および用具規定を参照のこと)。

フッ素ワックス検査

測定手順

- 1ペアの内、スキー1本を検査する。
- 検査値が0-1の場合（グリーン表示）、次のポイントへ移動、最大3ポイントまで検査を行う。
- 検査値1以上の場合（レッド表示）、検査結果の確認をするために必要なポイント数を検査する。もし3ポイントがレッド判定となった場合はDSQとなる。
- 検査結果がグリーン判定になったら、すぐにピックアップできる専用ラックにスキーを移動する。
- 検査結果がレッド判定の場合、レッド専用のラックに移動する。リザルトの確認は、レース終了後に代表者が行う。

フッ素ワックス検査

検査判定表

閾値ゾーン				
0-1	0-1	1<		
3点の検査結果			結果	判定
			OK	OK
			OK	OK
			OK	OK
			不合格	DSQ

フッ素ワックス検査

競技後

- レッド反応が出た場合、競技者は失格(222.8によるDSQ)となる。
- この決定は、 Juryから通知され、不服申し立てはできない。
- 検査結果が根拠として保存される。

フッ素ワックス検査

「規制上の意味において、フッ素検査はICR規則222.6に定義される重要なマテリアルコントロールとみなされる。検査結果がレッドと表示された場合、追加検査は、同じ検査器と同じ人員で行うが、その間に他のスキーの検査が行われるため、遅れが生じる。

ICR競技規則222.6.1において(FIS公式計測ツールを使用するFIS公式計測エキスパートが任命されたすべてのFIS公認大会およびSAJ公認大会において、その時点で実施された計測結果は、以前の計測結果にかかわらず有効かつ最終的なものである)規定されているように、上記の検査手順後の決定に対して不服を申し立てることはできない。

フッ素ワックス検査

フッ素ワックス検査員が準備するもの：

- 検査機器（ブルカー社 Alpha II）
- 専用PCおよび検査用ソフトウェア（OPUS最新版）
- スライドシステム一式等

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または大会実行委員会に準備していただくもの：

- テントを設置する区切られたゾーン（エリア）、サイズは5m×5m程度または8m×8m程度、ブレーキングトラック（JP）、またはフィニッシュエリア（CC）の出口に隣接
- テント 1張 3mX3m（横幕付）、またはテント2間×3間（横幕付）
- テーブル 1台（会議用）、椅子1～2脚
- ヒーター
- 照明×1（テント内が暗い場合）
- 床（カーペットなど滑りにくい素材であれば何でも可）、サイズは3mX3m程度
- 安定した電源（100ボルト）

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または大会実行委員会に準備していただくもの：

- スキーラック2台
- アシスタント1～2名（ジャンプ）、2～3名（クロスカントリー）
 - スタート1時間前からレース終了まで
- フッ素ワックス検査員の車がフィニッシュエリアに到着できない場合の機材の運搬サポート

フッ素ワックス検査

フッ素ワックス検査員とその責務

フッ素ワックス検査員：

- 競技前と競技中のフッ素検査の組織化に直接関わり、責任を負う。
- 競技会場でのフッ素ワックス検査のスムーズな流れに責任を持つ。
- 競技中に発生したレッド判定を Jury に口頭で報告をする。
- 競技終了後、テント内でレッド判定の根拠を Jury に示す。
- 競技会終了後、TD にレッド判定を書面で報告する。
- フッ素ワックス検査員の旅費、宿泊費、謝金はSAJが負担する。

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または実行委員会のアシスタント:

- アシスタントは検査員の指示に基づきサポートを行う。
- アシスタントの人数は、検査機器の台数による。

ジュリー:

- フッ素ワックスコントローラーから情報を受け取る。
- DSQと制裁の可能性について決定する。
- レッド判定の際、フッ素ワックス検査員から受け取った報告書をTDレポートに添付する。